

## 1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖靈に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

## 2. 真理と祈りと讃美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讃美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

## 3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

## 4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチヤンは成長し、祝福される。

## 5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えるながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

# 今週の聖書

ヨシュア 14:7 【主】のしもベモーセがこの地を偵察させるために、私をカデシュ・バルネアから遣わしたとき、私は四十歳でした。私は自分の心にあるとおりを彼に報告しました。

14:8 私とともに上って行った私の兄弟たちは民の心をくじきました。しかし私は、私の神、【主】に従い通しました。

14:9 その日、モーセは誓いました。『あなたの足が踏む地は必ず、永久に、あなたとあなたの子孫の相続地となる。あなたが私の神、【主】に従い通したからである。』

14:10 ご覧ください。イスラエルが荒野を歩んでいたときに、【主】がこのことばをモーセに語って以来四十五年、【主】は語られたとおりに私を生かしてくださいました。ご覧ください。今日、私は八十五歳です。

14:11 モーセが私を遣わした日と同様に、今も私は壮健です。私の今の力はあの時の力と変わらず、戦争にも日常の出入りにも耐えうるものです。

14:12 今、【主】があの日に語られたこの山地を、私に与えてください。そこにアナク人がいて城壁のある大きな町々があることは、あの日あなたも聞いています。しかし【主】が私とともにいてくだされば、【主】が約束されたように、私は彼らを追い払うことができます。』

14:13 ヨシュアはエフンネの子カレブを祝福し、彼にヘブロンを相続地として与えた。

14:14 このようにして、ヘブロンはケナズ人エフンネの子カレブの相続地となった。今日もそうである。彼がイスラエルの神、【主】に従い通したからである。

Jos14:7 "I was forty years old when Moses the servant of the Lord sent me from Kadesh Barnea to spy out the land, and I brought back word to him as it was in my heart. 14:8 "Nevertheless my brethren who went up with me made the heart of the people melt, but I wholly followed the Lord my God.

14:9 "So Moses swore on that day, saying, 'Surely the land where your foot has trodden shall be your inheritance and your children's forever, because you have wholly followed the Lord my God.'

14:10 "And now, behold, the Lord has kept me alive, as He said, these forty-five years, ever since the Lord spoke this word to Moses while Israel wandered in the wilderness; and now, here I am this day, eighty-five years old.

14:11 "As yet I am as strong this day as on the day that Moses sent me; just as my strength was then, so now is my strength for war, both for going out and for coming in.

14:12 "Now therefore, give me this mountain of which the Lord spoke in that day; for you heard in that day how the Anakim were there, and that the cities were great and fortified. It may be that the Lord will be with me, and I shall be able to drive them out as the Lord said."

14:13 And Joshua blessed him, and gave Hebron to Caleb the son of Jephunneh as an inheritance.

14:14 Hebron therefore became the inheritance of Caleb the son of Jephunneh the Kenizzite to this day, because he wholly followed the Lord God of Israel.

# 「今も私は壮健です。」ヨシュア14章7～14節

高齢になつても壮健であることは、誰にいとも願いであると思います。72歳の私にいとも、いれかのいとであり、課題であります。A.I.によると、「健康を維持し、生きがいを見つけ、人間関係を大切にし、生活の基盤を整える」ことが重要です。」とあります。

誰でもそつでければ問題ないでしようが、実際にはそういう理想を求めて、そうでない自分や伴侶に不満を募らせて不平や小言をいう」とになつてゐるようです。つまり、理想を抱かせるいとによつて、劣等感や不安などをもたらせるのです。そのようにして、健康や身体に支出させ、趣味や交流を促すサークル活動やスポーツをさせ、蓄財を促すのです。それらを十分に果たすことがでける人は少数であり、高齢になつて振り返れば、自分を失格者、脱落者とみなして失意の老後をもたらすのです。

功利主義の害、主知主義の害を話してきました。今日は、理想主義の害をお伝えします。もし、若い時からいのうな理想を目指して育つと、自分勝手で排他的な人になります。友人は、自己犠牲と寛容からできるので、そのような人には友がいないでしよう。仕事も、自分の成功ばかりを考える人を助け協力する人はいないでしよう。ドジャースの山本投手や大谷選手が尊敬されるのはチームの為に自己犠牲を惜しまないからであり、自己研鑽を積んでいるからです。

高齢になつて、長生きや健康、財産の保全を考えると、伴侶は邪魔となり、離婚や別居を目論みます。合理的で儉約した生活、自分の健康管理を優先した日々を過ぐ」そつとします。自分の主張を変えず、周りの人を思い通りに動かすと要求します。「しかし、神は彼に言われた。『愚か者、おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。おまえが用意した物は、いつたいだれのものになるのか。』（ルカ12・20）。

カナンの地の斥候として12部族から一人ずつ選ばれました。12人の報告は、「あの民のいとには攻め上れない。あの民は私たちより強い。」（民数記13・31）と報告し、全会衆は「大声をあげて叫び、民はその夜泣き明かした。」（14・1）。「すると、その地を偵察して来た者のうち、スンの子ヨシュアとエフンネの子カレブが、自分たちの衣を引き裂き、イスラエルの全会衆に向かつて次のように言つた。「私たちが巡り歩いて偵察した地は、すばらしく、良い地だつた。もし【主】が私たち

地は乳と蜜が流れる地だ。ただ、【主】に背いてはならない。その地の人々を恐れではならない。彼らは私たちの餌食となる。彼らの守りは、すでに彼らから取り去られてゐる。【主】が私たちとともにおられるのだ。彼らを恐れではならない。」（回6-9）と叫びました。神は、カレブとヨシュアの他には「おまえたちを住まわせるとわたしが誓つた地に、だれ一人入るいとはできない。」（回30）と怒りました。

私は、高齢の恐れは、カナンに入る恐れと似てゐるようと思われます。人々は、信仰が無ければ恐れる傾向にあります。そして、「全会衆は、一人を石で打ち殺そと下さいだしました。」（回10）。人生には、恐れは付きものです。しかし、神は「恐れではならない」と聖書の中で36回も警告してゐます。恐れたうえで、神に祈り求めて、それは信仰ではなく、不信仰に基づいた願いなので、聽かれるはずがありません。恐れは、排他的にもなり、人を傷つけるいともなります。

「カレブは、他の者とは違つた靈を持ち、わたしに従い通した」（回24）。いの時、カレブは40歳でした。そして、今日の聖句は85歳です。なぜ壮健なのでしょう。それは恐れないで生きているからです。

祈祷会でも話しましたが、2014年に私は健康を害しており、更にいろいろな心労で、引退を考えていきました。静養を考えて、長柄の土地を買おうと思いましたが、高額なので諦めました。更に、問題が起つて、引退ができないとわかつて苦しみました。そのうちに、値段が私の要望の通りに半額以下になり、買うことができました。土地を耕し、構築整備しているうちに逞しくなり、すつかり健康になりました。そして、自分の弱さと頑固さを認めて、仕事を任せ、人の意見を聞くようになつて、業績も上がりました。

当時、恐れているいとは口に出さなかつたけれど、主は私を慰めてくださいました。長柄での野外活動は、私の靈性を高め、思いを深めてくれました。「今や私は壮健です。」教会のビジョンは深まり、展開し、クリニックとヨーゼフも、A.I.やI.T.を活用していきます。来週は予算総会です。さらに、千葉福音キリスト教会の発展を期して、恐れずに活動していこうではありませんか。ネット・チャーチも、一般社団法人も、会堂の建築拡大も計画しています。